秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより
きらりNet
令和５年２月８日
第１２９号
秋田県立秋田きらり支援学校
地　域　支　援　部

関係機関との連携について　～個別の支援計画の活用～

本校では、手厚い支援が必要な児童生徒一人一人の夢、願いを大切にし、的確な教育的支援を行うために個別の支援計画を作成しています。本人や親御さんが未来を思い描いて学校生活を送れるよう、長期的な視点に立ち、入学から卒業までの一貫した指導支援に向け、活用を進めています。隣接する医療療育センターや福祉事業所など、関係機関との連携による一人一人の教育的ニーズの把握と、個別の支援計画の活用について紹介します。

医療療育センターとの連携

◇医教連絡会（月曜会）◇　医療療育センターと連絡調整を行うために月１回実施しています。
学校からは、副校長、教頭、学部主事、関係分掌主任、養護教諭が、医療療育センターからは、医局、看護部長、病棟看護師長、リハビリテーション部、育成部、相談連携室が出席します。

◇連携ケース検討会◇　一人一人の情報と課題を共有するために年6回実施しています。
入所する児童生徒の主治医、看護部、育成部、PT・OT・STと意見交換を行います。

◇育成部との面談◇　連携して指導・支援を行うために年2回実施しています。
入所する児童生徒の生活面、余暇支援の情報を共有しています。

◇リハビリテーション参観◇　学校での指導に役立てるために年2回実施しています。
医療療育センターの、PT・OT・STとのリハビリテーションの様子を参観します。

◇エリア専門家の活用◇　教育的指導支援の効果を高めるために年120時間実施しています。
医療療育センターリハビリ部門のPT・OT・STから自立活動の指導や障害特性に応じた指導助言を受けます。

放課後等デイサービス事業所との連携

◇利用開始に当たり連絡会を実施しています。円滑な下校と個に応じた放課後支援に向けて情報共有を進めています。今年度、本校の児童生徒は、22事業所を利用しています。11月には双方の希望する児童生徒について対面とオンラインによる情報交換会を実施し、11事業所と情報を共有することができました。

相談支援事業所との連携

◇サービス利用等計画の支援会議を行っています。相談支援員の方が中心となり、保護者、相談事業所、放課後等デイサービス、訪問看護師、学校職員等各関係事業所の担当職員が集まり、児童生徒の生活の質の向上を目指し、共通の目標や支援の方向性等の情報を共有し支援に生かします。今年度12人実施しています。

保護者との連携

◇面談週間を年 3 回実施しています。個別の支援計画の支援目標の共通理解と学校生活における一貫した指導支援に向けて情報共有を進めています。保護者理解と支援、学校の環境変化がもたらす影響、保護者の夢や願い、本人の生活の質の向上等を考えながら今年度の課題達成に向けての検討を行っています。また、保護者の方が中心となり、医療、リハビリテーション科、福祉事業所等での目指す子どもの姿の共有に向けた話し合いをコーディネートできるように、教員としての専門性を発揮しながら個別の支援計画の活用を進めています。

※　理学療法士（PT）作業療法士（OT）言語聴覚士（ST）

〈文責　二階堂　悟〉

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

【10歳おめでとうの会　～　思いをプレゼントに　～　】 <小学部：生活科>

小学部4年生では「10歳おめでとうの会」を計画し、準備を進めています。10歳という節目に、家族へ普段なかなか伝えることのできない感謝の思いを伝えたり、これまでの成長を、友達と一緒に振り返ったりすることを目的としています。

小学部4年1組も、この素敵な会の場で、これまでの感謝の思いを家族にプレゼントにして届けたいと考えています。今年度4年1組では染め物を通じた単元を計画してきました。単元では大きく①身近な野菜や植物を染め物に用い、それらに実際に触れ、香りや手触りに気付くこと②洗濯ばさみや輪ゴムなどを用いて模様付けを行い、手先を使った活動で巧緻性を高めること③決められた量の水を注いだり、アイロンがけをしたりと生活に即した学びをすることの3つをねらいとしてきました。「10歳おめでとうの会」では、年間の単元のまとめとして、藍染めでキーホルダーを作ります。これまでの学びを生かしつつ、「ありがとう」の思いと共に、プレゼントを渡したいと思います。　（文責：新岡　航平）

藍染めの
キーホルダー

教育専門監のコーナー

《夢に向かって10歳の飛躍の時》

【高学年の時期における子どもの発達において、重視すべき課題】

○抽象的な思考への適応や他者の視点に対する理解
○自己肯定感の育成
○自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養
○集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成
○体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけづくり

【課題を達成できる、4つの対策】

○自己肯定感を育む　ほめられることで自信をつける
「すごい」「すばらしい」「さすが」「ありがとう」を使い具体的にほめる。

○人の役にたつ経験を重ねる　責任を果たすことで自信をつける
良さを生かし、能力に適した活動を具体的に設定する。

○他者への共感を高める　物語を通じ自分や周囲の状況を客観視する
読み聞かせや積極的に本を読む時間を設定する。

○自然、社会体験を重ねる　正義感と自己肯定感を強くする
「正しいのか、正しくないのか」という基準に気づき、判断する体験活動を設定する。

『未来を思い描くおめでとうの会』

周囲の状況を見て、自分の意思で行動したり、修正したりしながら役割を担い、学びを進める小学部4年の生活科の実践。大切にしているのは、周囲との関係性の中で自分や相手を慈しみ、よりよく生ること。そして自主的・自立的に行動すること。クラスのかけがえのない存在としてたくさんの人の思いに支えられながら、仲間と共感し、人の役に立つ経験を重ねてきました。3人の「分かる、できる、考える」による生活科の学びの中で、育まれてきた自尊感情と他尊感情、大切な仲間と家族への思いを込めて会の準備を進めます。自分の夢、願い、将来の生活で大切なことを実現できるように、人との関わりの中で、自らの行動を振り返り、自身の学びを意味付け、価値付けしながら自分の良さや可能性に気づいていきます。自分にはできることがある、渡す家族を思い仕上げた藍染めのキーホルダー。3人の「分かる、できる、考える」が一つの形となりました。

教頭　　近藤　郁　　地域支援部主任　　大友　明希子
住所：〒010-1409　秋田市南ケ丘１丁目１番１号
E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp
電話：018（889）8573　　FAX：018（889）8575
「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。
http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html